

保全協会報「ぎふ環境保全」編集委員

委員長 石原 幸喜

副委員長 濱岡 直彦

各務 剛 児 川 合 雅 和 野々村 清 藤 沢 茂

伏見 典郎

編集後記

新春を^{ことほ}寿ぎ、皆様のご多幸をご祈念申し上げます。本年も本誌ご愛読の程、謹んでお願い申し上げます。

本協会の設立は、平成元年5月19日。今年で30年目を迎えます。節目の年、この編集後記の執筆に永年携わっておられた先輩に替わり拙文を寄せます。

本誌が皆様のお手元に届く頃には新しい岐阜市長が誕生していると思います。4期16年市政運営された前市長からバトンを受け、更なる岐阜市発展に尽力される新市長の誕生を大いに期待しております。しかし、今回の候補者多数の混戦はさながら戦国時代を想起させられます。

戦国時代を象徴する関ヶ原の戦い。昨年、映画「関ヶ原」を観ました。司馬遼太郎の小説から、25年近く監督が腹蔵したものを映画化しました。1600年に関ヶ原で繰り広げられた天下分け目の戦は余りにも有名です。秀吉子飼いの西軍大将・石田三成はイケメン演技派の岡田准一。天下取りを目論む東軍大将・徳川家康には文句なしの役所広司。

愛と義に生きる三成は旗標として『大一大万大吉』を掲げました。一人が万民のために、万民は一人のために尽くせば、天下太平の世になる。現代語訳すれば、“One for all, All for one.”が一番近いでしょうか。

しかし、天下は愛と義の人ではなく老練な家康の下に転がり込みます。私たちがそこから学ぶべきは、理念だけでは飯は食えぬ。気心の知れた人との付き合いで終始し、耳に痛いことを言ってくれる人を遠ざける。これでは、天下取りどころか人としての成長も心許なくなります。家康と三成の振る舞いを端的に表す逸話として、三成が落とした杖を家康が拾い渡す場面があります。三成は憮然として受け取らず狭量な印象を周りの者に与え、一方家康はその器量の大きさを示したそうです。歴史に「もし」はありませんが、三成がニコリと微笑んで会釈の一つでもしたら、天下は変わっていたかもしれません。私たちはそんな行為の一つ一つを拾い集めて、その人を見ているように感じます。

天下取りには縁がない私ですが、妻のご機嫌取りは上手になってきたようです。

家内安全・天下太平が一番かと思う今日この頃です。

記 石原 幸喜

平成30年1月15日発行 第113号

編集発行 一般社団法人岐阜県産業環境保全協会

理事長 粥川 長司

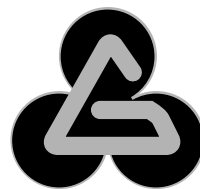
〒500-8384 岐阜市藪田南1丁目11番12号 岐阜県水産会館1階

TEL<058>272-9293 FAX<058>272-6764

<http://www.gifu-hozen.jp>

E-mail info@gifu-hozen.jp

印刷 共和印刷株式会社



協会のシンボルマーク